

# 五領の声

作：薮内美佐子・五領アートプロジェクト参加者の皆さん

弁士 1  
弁士 2  
弁士 3  
弁士 4  
弁士 5  
弁士 6  
弁士 7

サワガニ 1  
サワガニ 2  
サワガニ 3  
ウサギ  
へび  
子ども  
おばあさん  
おじいさん  
たくさんのトリ

黒子 1  
黒子 2  
黒子 3

黒子1 (両手にトリを持って 一人で二役 宇宙語喋り)

「私たちは「お話作り」の文字売りです」

みんな (それぞれザルから文字散らし)

黒子1 「今日は みんなに「五領の声」というお話を届けに来ました」

♪ヨシ笛①

弁士1 「淀川の船着き場にある、大きなピンクの石の裏側に、サワガニさん達の小さなおうちがありました。サワガニさん達は、友達に手紙を書いています」

サワガニ1 「みんなが十月三十一日に、私たちのおうちに遊びに来てくれますように」(※)

サワガニ2 「ほんとだね。手紙を読んで来てくれますように」

サワガニ3 「この手紙をみんなに届けに行こう」

弁士1 「サワガニさん達は 手紙を持っておうちから出ていきました」

♪ヨシ笛②

弁士2 「赤池の近くでは、五領で可愛く育ったウサギが、ジャガイモを転がして遊んでいました。

コロコロコロ

みんな 「コロコロコロ」

弁士2 「コロコロコロ」

みんな 「コロコロコロ」

ウサギ 「楽しいな。楽しいな」

弁士2 「すると、ジャガイモが転がって、赤池に落ちてしまいました。  
チャッポーン」

みんな 「チャッポーン」

弁士2 「チャッポーン」

みんな 「チャッポーン」

ウサギ 「あらまあ。どうしよう? 取りに行かなくちゃ」

弁士2 「ウサギは、すぐに池に潜って 落としたジャガイモを両耳で見事に

つかまえて浮き上がってきました。ジャガイモには、1枚の手紙がくっ付いていました」

ウサギ「あれ、これは誰からの手紙かな？」

弁士2 「ウサギは夢中で手紙を読んでいたので、鶺鴒のヨシ原の茂みにさまよい込んでしまいました」

♪ヨシ笛③

弁士3 「その茂みの中では、お天気の日も雨の日も、毎日毎日、へビが大切な水を探していました」

へビ 「どこに行けば あの水が飲めるかな？」

弁士3 「クネクネクネ」

みんな 「クネクネクネ」

弁士3 「クネクネクネ」

みんな 「クネクネクネ」

弁士3 「へビが背の高いヨシのトンネルを抜けると、そこには美味しい水がありました」

へビ 「あった。あった。やっと見つけたぞ」

弁士3 「ゴクゴクゴク」

みんな 「ゴクゴクゴク」

弁士3 「ゴクゴクゴク」

みんな 「ゴクゴクゴク」

弁士3 「へビが美味しい水を飲むと、なんと手が生えてくるのです。へビは神の使いだったのです。へビはいつも両手に斧と傘を持っていて、人々はどちらかを借りて助けてもらっているのです。鶺鴒の水は不思議ですね。この不思議な鶺鴒の水は梶原山から流れてきます。へビは水を遡って梶原山までスイスイと泳いでいきました」

♪ヨシ笛④

弁士4 「怖いことで有名な梶原山では 子どもが一人で歩いていました」

子ども 「この山は迷路のようだよ。ちゃんとおうちに帰れるかしら？」

弁士4 「道に迷った子どもが 心配そうに歩いていると、どこからか声が聞

こえてきます。

オメデトウ〜」

みんな「オメデトウ〜」

弁士4「オメデトウ〜」

みんな「オメデトウ〜」

子ども「不思議な声が聞こえるわ。あの声を頼りに出口を探してみよう」

弁士4「子どもが山の中を泳ぐようにさまよい歩いていると、甘い匂いが漂ってきました」

子ども「美味しそうな匂いがする。でもそっちに行ったらダメな気がする」

弁士4「子どもの脳は 直感的にそう思い、この誘惑に負けないように 呆れるほど大きくなり、子どもは その力に守られながら 出口を見つけることができました」

子ども「良かった。やっと出口にたどり着いたわ。でもこの大きな木の根っ

こが邪魔になって出れないなあ」

へび「この斧をどうぞ使ってください」

弁士4「子どもの足元で ずっと見守っていたへびが、斧を貸してくれました。子どもは斧で大きな根っこを切り、やっとのこと 梶原山から出ることができました。そして へびも一緒に、おばあさんとおじいさんが住む おうちに帰ることができました」  
(こどもは根っこを置いて退場。蛇も一緒に帰る)

♪ヨシ笛⑤

子ども「ただいま〜」

へび「ただいま〜」

おばあさん「おかえり〜 晩御飯の支度をしましょうね」

弁士5「おばあさんは、近くの淀川まで ウサギにもらったジャガイモを洗いに行きました。  
ジャブジャブジャブ

ジャブジャブジャブ

みんな「ジャブジャブジャブ」

弁士5「ジャブジャブジャブ」

みんな「ジャブジャブジャブ」

弁士5「ジャガイモを洗っていると、遠くの方から 真っ赤な唐辛子が流れ

てきました」

おばあさん「美味しいような唐辛子だね。晩御飯にちょうどいいわ」

弁士5「唐辛子には 4枚の手紙がくっ付いてました」

おばあさん「あれ？ これは誰からの手紙かな？」

弁士5「おばあさんが、おうちに帰って夢中で手紙を読んでいると、おじいさんが、ダイコンとレンコンを持って帰って来ました」

おじいさん「ただいま」(→じゃがいもをへびに渡して手紙をよむ)

子ども「おかえり」

へび「おかえり」

おばあさん「おかえり」

弁士5「おじいさんは、バランスを競う大会で優勝したので、ご褒美をもらってきたのです。おじいさんは凄いですね。子どもとへびとおばあさんとおじいさんは、ジャガイモと唐辛子と大根とレンコンを炊いて、美味しい晩御飯を食べました。

モグモグモグ

みんな「モグモグモグ」

弁士5「モグモグモグ」

みんな「モグモグモグ」

弁士5「おばあさんは 子どもとへびとおじいさんに 手紙を見せました」  
おばあさん「みんなに手紙が届いたよ。お誘いの手紙だよ。みんなで旅に出かけよう」

♪ ヨン笛 ⑥

弁士6「子供とへびとおばあさんとおじいさんは、透明なビニールの船で旅に出ました。するとどこからか、また声が聞こえてきました。

オメデトウ

みんな「オメデトウ」

弁士6「オメデトウ」

みんな「オメデトウ」

弁士6「上を見上げると お月様がこちらを見てニコニコ笑っています。

お星様もキラキラ輝いています」

子ども「ひとつ」

みんな「ひとつ」

へび「ふたつ」

みんな「ふたつ」

おばあさん「みつつ」

みんな「みつつ」

おじいさん「よつつ」

みんな「よつつ」

弁士6 「お星様の数を数えながら楽しい旅を続けていると、急に大雨が降ってきました。

ザーザー」

みんな「ザーザー」

弁士6 「ザーザー」

みんな「ザーザー」

おばあさん「あらまあ 濡れてしまうわ。どうしよう」

おじいさん「困ったなあ。この船は屋根がないからなあ」

子ども「寒くて怖いよう」

へび「この傘をどうぞ使ってください」

おばあさん「ありがとうございます」

おじいさん「ありがとうございます」

子ども「ありがとうございます」

弁士6 「へびのおかげで、大雨が降っても楽しい旅は続きました。梶原山の東から太陽が顔を出した頃、船は 淀川の船着き場に着きました。子どもとへびとおばあさんとおじいさんは 船からおりて大きな石の裏側の、サワガニさん達の小さなおうちを見つけました」

♪ヨシ笛⑦

子ども「こんにちは。手紙でお誘いありがとうございます」

へび「こんにちは。手紙でお誘いありがとうございます」

おばあさん「こんにちは。手紙でお誘いありがとうございます」

おじいさん「こんにちは。手紙でお誘いありがとうございます」

弁士7 「おうちに入ってみると、鶉殿のヨシ原の茂みからやって来たウサギが みんなを待っていました」

子ども 「あら。ウサギさん。こんにちは。サワガニさん達はどこにいるのかしら」

ウサギ 「こんにちは。どこかに隠れているのかな？」

弁士7 「するとどこからか、またあの声が聞こえてきました。

オメデトウ」

みんな 「オメデトウ」

弁士7 「オメデトウ」

みんな 「オメデトウ」

弁士7 「みんながその声にうっとりしていると、綺麗な服を着たサワガニさん達が、忍び足で おうちの中に入ってきました。

♪ヨシ笛⑦ (→「綺麗な服を着た・・」のあたりから吹き始める)

サワガニ1 「みなさん 来てくれてありがとう」

サワガニ2 「今日は十月三十一日。 子どもさんのお誕生日です」 (※)

サワガニ3 「みんなでお祝いしましょうね」

子ども 「ありがとう。 そうだね。今日は私の誕生日。 とっても嬉しいわ」

弁士7 「オメデトウ」

みんな 「オメデトウ」

♪ヨシ笛①〜⑦ を続けて吹く

弁士7 「お外では、透明な船が 宇宙船に姿を変えています。

サワガニさん達を先頭に 子どもとウサギとへびとおばあさんとおじいさんは、宇宙船に乗って お誕生日会を開きます。宇宙船からは、五領の赤池や梶原山や淀川が見えています。お祝いに駆けつけた たくさんのトリさん達も、宇宙船の周りを飛んでいます。

オメデトウ」

みんな 「オメデトウ」

弁士7 「オメデトウ」

みんな 「オメデトウ」

おしまい

(※) セリフの中の「十月三十一日」は、上演する日に置き換えてください。